

1

きゅうはらいかわばし

旧祓川橋

- 所在地／福島市太子堂(信夫山公園内)
- 架橋年／安永年間(1772～1781)、寛政2年(1790)、享和3年(1803)、明治18年頃等諸説あり
- 管理者／福島市
- 橋長・幅員／L=8.5m、W=3.4m、アーチ径間 5.5m、アーチ高2.0m
- 沿革

信夫山の羽黒神社参道入り口の祓川に架橋されていたが、昭和45年に信夫山公園内に移設された。昭和48年に福島市指定の有形文化財に指定されている。

信夫橋と松川橋に共通する特徴が見られ、信夫橋の橋脚部同様に鶴と亀が要石に掘られるなど、両橋との技術的共通性が多い。



2

まつかわばし

松川橋

- 所在地／福島市松川町(福島市道)
- 架橋年／明治18年(1885)
- 管理者／福島市
- 橋長・幅員／L=15.4m、W=5.6m、アーチ径間9.6m、アーチ高2.9m
- 沿革

明治17年に信夫橋が13連眼鏡橋に架替えられることを知った松川村が要望を行い、県知事の三島通庸は建設費の地元負担を条件に建設を許可した。

石職人は信夫橋にも関わった三春町の松本亀吉や、川俣町の布野兄弟などが参加した。

昭和40年に水原川の改修により撤去される予定であったが地元の要望により残された。

現在も路線バスが走る現役の車道橋である。



3

じんねんぼうやま ごうきょう

甚念坊山2号橋

- 所在地／福島市渡利(福島市道)
- 架橋年／明治18年(1885)
- 管理者／福島市
- 橋長・幅員／L=7.2m、W=4.6m、アーチ径間5.4m、アーチ高2.6m
- 沿革

本橋は明治十八年に、県と沿線町村の負担により実施された阿武隈川沿いの富岡街道(現在の国道114号)整備の際に架橋。その後昭和14年に竣工した東北電力信夫発電所工事により街道は山側に付け替えられ、本橋は工事用道路として活用された後に市道に移管された。

現在はコンクリートの地覆でかさ上げされ、荷重制限はあるが車道橋として現在も使用。

架設年次等は不明であるが、壁石の構造等は松川橋と類似しており関連が示唆される。



4

ひろおもて ばし
広表のめがね橋

- 所在地／福島市飯野町（福島市道）
- 架橋年／不明（明治15年以前と推定）
- 管理者／福島市
- 橋長・幅員／L=5.5m、W=5.3m（架設時1.8m）
アーチ径間2.5m、アーチ高1.4m
- 沿革

阿武隈川に逢隈橋（現在の3代前）が架橋後、明治時代初期に郡道として整備された新橋街道に、明治15年ごろに整備されたと推定される。

その後、道路整備により両側が拡幅され、現在もバス路線として現役で活躍する。

下流（布積み）と上流（谷積み）で石の積み方が違う。上流は空積み、下流はモルタル使用の練積みでありどちらも元の橋を拡幅した際に積まれた石積で、残念ながら建設当時の壁石は見るできない。



5

だいけい じ いしばし
大桂寺の石橋

- 所在地／福島市飯野町（大桂寺参道）
- 架橋年／安永7年（1778）
- 管理者／大桂寺
- 橋長・幅員／三径間桁橋、L=7.8m（3.0@1+2.4m@2）、W=1.8m（地覆内側1.3m）
- 沿革

石橋供養塔によれば、安永7年に信州高遠藩の石工である花井染右衛門たちにより造られたが、昭和44年頃に女神川の河川改修により撤去され、現在の場所（大桂寺参道）に移築。

もともとは3径間の桁橋であったが、参道として太鼓橋風に組み直されている。江戸時代の桁橋の構造を知る上で貴重な遺産である。



6

きゅうかべ さわ がわ いしばし
旧壁沢川石橋

- 所在地／伊達郡川俣町飯坂（機織神社御前堂跡）
- 架橋年／明治22年（1889）
- 管理者／川俣町
- 橋長・幅員／L=9.0m、W=5.85m（移築後3.5mに縮小）、
アーチ幅7.2m、アーチ高約2m
- 沿革

川俣町と伊達市月舘町を結ぶ街道整備の際に、信夫橋・松川橋を手がけた石工、布野宇太郎・源六兄弟により明治22年に建設された。

その後大正2年の洪水で半分流出するが、翌大正3年に信達軽便鉄道の橋として使用するため修復・拡幅された。

その後再び県道となり、昭和50年に拡幅工事により撤去されることとなるが、地元の強い要望により保存解体され神橋として移築。

布野が手がけた信夫橋・松川橋と似た流麗なアーチ橋。

